

アカウンティングスクールについては、1ページをご覧ください。

法務研究科 ロースクール

法科大学院では、3月17日市ヶ谷キャンパスにおいて、今年1月に最高裁判所判事を退官された甲斐中辰夫元判事の講演会を実施しました。甲斐中元判事は、1962（昭和37）年本学法学部を卒業、1964（昭和39）年司法試験に合格し検察庁に入庁しました。東京地方検察庁検事正、東京高等検察庁検事長を歴任された後、2002年に最高裁判所判事に着任しました。会場には数十名の学生に加え、法科大学院の教員も数多く聴講し、関心の高さをうかがわれました。

講演では、学生時代の司法試験の勉強に遡り、友人である才口千晴氏と切磋琢磨のうえ共に合格したお話から始まりました。甲斐中氏は検事、才口氏は弁護士として別々の法曹の道を歩んだものの、その後どちらも最高裁判事になったという縁を引き合いに、こうした友人を数多く持ってほしいと激励されました。また、最高裁判事の仕事

の内容や生活、よりよき法社会をつくるための姿勢についてのお話は、これからの法曹界を担う学生達に深い感銘を与えるものでした。

なお、甲斐中元判事が最高裁で使用していた法服は、本学に寄贈され、2008年に退官された才口元判事の法服とともに、市ヶ谷キャンパス9階の模擬法廷ロビーで展示中です。



甲斐中元判事の講演

※12ページに関連記事

ビジネススクール（大学院戦略経営研究科）は、2010年4月に博士後期課程である、ビジネス科学専攻（DBAプログラム）を開校しました。

本博士後期課程の理念は、不確実性の高い経営環境における実践的な問題に対して、経営戦略を中心に関連諸分野の知識を“総合して”対応する創造力と実行力に富んだ高度専門職業人の養成を通じて、それぞれの所属する組織の発展と、経済・社会の持続的発展ならびに新しい文化の創造に貢献することにあります。

ビジネス科学専攻は有職社会人を主な教育対象としています。激しい変動を繰り返す日常業務を通して「自ら、より優れたフレームワークを創出する」ために、博士後期課程という、より高度な枠組みにおいて、蓄積された知識から創造的な解決方法を探るための理論を展開し、実務に応用できる新たな知識の創造をめざします。

- 名称：
中央大学大学院戦略経営研究科
ビジネス科学専攻（博士後期課程）
- 設置場所：
後樂園キャンパス
- 取得学位：
博士（経営管理）
Doctor of Business Administration
博士（学術）
Doctor of Philosophy
- 定員：12名
- 開講時間帯：平日夜間、土曜日、日曜日

戦略経営研究科 ビジネススクール

